

議長定例記者会見／令和6年12月9日（月）

○丸井議長

お忙しいところお集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。

それでは、まず初めに、第320回定例会の採決結果について御報告をいたします。

知事提出議案44件のうち、議案42件を可決・認定・同意・承認し、報告のみが2件でした。

議員発議案については、提出された4件のうち1件を可決し、3件が否決されました。

議員派遣については、国内派遣3件が可決されました。

私からは以上です。

○記者

議会改革というテーマで1年を振り返り、議長はどのようにお感じになられたのかお聞かせください。

○丸井議長

5月から議員定数等検討委員会において議員定数等の検討が開始されました。6月には本会議場における軽装の通年化が決定されました。現在はペーパーレス化に取り組んでいます。言っているのかわかりませんが、手話通訳の関係もありますが、手話通訳ではなく、AIを使った文字起こしの検討を進めています。私は、前向きに議会改革に取り組んでいると思います。

○記者

県議会3会派が提出した飛び地と1人区を解消する意見について、議長としてどのように受け止めているのかお聞かせください。

○丸井議長

議員定数等検討委員会で議論いただいているところです。私からは、選挙の1年前に発表いただくスケジュールをお願いしており、そのスケジュールで進めていると伺っているので、成り行きを見守っていきたいと思っています。

○記者

1年程度の周知期間を考えると、議論する時間が1年余りと限られてきます。改めてお聞きしますが、5項目については、今任期中に見直すというお考えでしょうか。

○丸井議長

議員定数等検討委員会を設置して、議論いただいているので、成り行きを見守りたいと思います。議論を踏まえ、変更する場合は1年程度の周知期間をお願いしており、スケジュールを守って進めていただいていると思っています。

○記者

年収103万円の壁の見直しについて、引き上げ幅や時期など、この問題が地方に与える影響は少ないと思います。この問題について議長としてどのようにお考えになるのかお聞かせください。

○丸井議長

年収103万円の壁については、知事答弁にもありましたが、引き上げに伴い、県が100億円、市町村が150億円、合せて250億円が減額する可能性があるということです。県民・市民の立場からすると、減税がいいという人がいれば、必ず悪いという人もいます。県も市町村もかなり人員を減らして、いろいろ対策をしており、地方にとっては大きな痛手になると思います。先月、議長会として首相官邸に伺って、林官房長官に地方に負担がかからない施策をお願いしたいと要請しました。

○記者

県はもちろん、市町村にとってのインパクトが強く、今後どういふかたちで議論が進むべきと思うのかお聞かせください。

○丸井議長

将来的に国の借金を増やしていいのかということがあると思います。市町村はかなり人員を減らして頑張っており、これ以上絞るところがあるかという疑問に思います。県議会議長の立場では、今は県の財政のほう心配です。

○記者

再生可能エネルギーの共生制度について、新税を含めて今年度の関連条例制定を目指しています。事業者から新税はやめてほしいという声もあるようです。議論の進め方など、何かありましたらお聞かせください。

○丸井議長

まだ議論の途中ですので、議会に提出された議案等を議論していくことになると思います。

○記者

年収103万円の壁の見直しについて、先ほど県の財政のほう心配ですと言われたのは、何と比較をされていたのかお聞かせください。

○丸井議長

年収103万円の壁の見直しに伴い、減税で喜ぶ人がいれば、誰かに弊害がでると思います。県・市町村と県民・市民を比べると、今は県・市町村の財政が心配です。

以上、良いお年をお過ごしください。ありがとうございました。